

2．流域及び河川の自然環境

2－1 自然環境

(1) 流域の自然環境

① 富士川流域の植物

流域の植生は甲府盆地周辺の平地から山麓にかけてクヌギ・コナラ林などの落葉広葉樹林が広がり、標高1,500m以上の中腹部にはクリ・ミズナラ林やブナ林などが見られ、さらにその上には亜高山帯のシラビソ・オオシラビソ林などが広がっている。さらに、高山帯にはシラカンバ・ダケカンバ林が分布し、山頂付近にはハイマツ帯等の高山植生も分布している。富士川中流部の山岳部や佐野川、早川等の急峻な河岸段丘面にはクリ・ミズナラ林等が分布し、下流部ではほとんどが常緑針葉樹のスギ・ヒノキ植林が主体をなし、一部にシイ・タブ林、コナラ・クリ林、カシ林等も見られる。

その他特筆すべきものとして、規模が小さいものの学術上価値の高い植物として南アルプスの北岳を中心としたキタダケソウ等の高山草本群落や早川(広河原)のカツラ林、鳳凰三山のダケカンバ林、ウラジロモミ林等がある。

② 富士川流域にすむ動物

富士川流域にすむほ乳類は、ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、イタチ、キツネ、タヌキ、リス等である。このうち、イノシシ、キツネ、タヌキは流域のほぼ全域に、ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマなどの大型ほ乳類は富士川流域の西部や北東部から富士西麓の山間部において生息している。中でも、秩父多摩甲斐国立公園、南アルプス国立公園内の高山帯には国の特別天然記念物のニホンカモシカが確認されている。



◆国の特別天然記念物ニホンカモシカ

鳥類は多様な環境を反映し、溪流に生息するヤマセミ、中流部の崖を巣として利用するカワセミ、富士川河口部の砂礫地を繁殖場として利用するアジサシ類など、非常に多くの種類が生息している。また、笛吹川合流点付近等においては渡り鳥が多く確認されている。

さらに、国の特別天然記念物に指定されている南アルプスのライチョウ、国の天然記念物に指定されている身延町のブッポウソウ繁殖地などがある。



◆溪流に生息するヤマセミ（自然）



◆ブッポウソウは夏鳥として飛来し、山地の森林で繁殖する。富士川流域では、身延町のブッポウソウ繁殖地が国の天然記念物として指定されている。

富士川流域にすむ魚類には、イワナ、アマゴ、アユ、ウグイ、アブラハヤ、オイカワ、カジカ、カワヨシノボリなどがいる。溪流にはイワナ、アマゴ、上流部には清流の礫質河床を産卵場とするカワヨシノボリ、カジカ、中下流部には瀬を産卵場とするアユ、ウグイやアブラハヤ、オイカワ等が多く見られる。また、笛吹川や甲府市市街地を流れる荒川等では、コイ、フナ、ドジョウ等が多く見られる。



◆溪流に生息するイワナ



◆上流部などの礫質河床で産卵するカジカ

富士川流域に生息する昆虫は、種類、数ともに多く、なかでも注目すべきものとして、荒川上流や富士川下流のハルゼミ、塩川上流のオオムラサキ、ヒメギフチョウ、釜無川中流部のゲンジボタル、富士川下流域のギフチョウなどがあげられる。

富士川流域に生息する両生類・爬虫類はカエル、ヘビ、トカゲ等が流域全体で確認されている。なかでも、注目すべきものとして南部町など富士川中流部に生息するモリアオガエル、早川の上流のヒダサンショウウオ、早川や大武川上流のハコネサンショウウオ、荒川上流のカジカガエルなどがあげられる。



◆平地から低山地の松林にすむハルゼミ
ネイチャープロダクション提供



◆ギフチョウより少し小さいヒメギフチョウ。成虫はカタクリの花を好んで吸蜜する。北海道から本州中部まで分散し、ギフチョウとすみ分けている。
ネイチャープロダクション提供



◆山地の溪流や湖とその周辺の川原、森にすんでいるカジカガエル
(自然，重要)

出典：フィールド総合図鑑 川の生物
(財)リバーフロント整備センター編 山海堂

(2) 河川の自然環境

既往の河川水辺の国勢調査等においては、富士川で多くの生物種が確認されているが、富士川を生息・生育場、繁殖場、産卵場等として常時利用する種や、餌場、休息場等として一時的に利用する種など、生物によって富士川の河川環境との関わり方は様々である。

生物の生息・生育場としての富士川の河川環境の特徴として、「富士川の河川環境を特徴づける生物」、「富士川に生息・生育する重要な生物」及び、「区間別の河川環境の特徴」についてみると次のとおりである。

① 富士川の河川環境を特徴づける生物

富士川に生息・生育している生物の中から、富士川の河川環境を特徴づける代表的な生物種を以下の観点から選定すると、下表の種が挙げられる。

- ・砂礫地、樹林地、崖地、湿地環境等の河原や瀬・淵、礫質河床、一部区間では止水域、砂泥底などの富士川の特徴的な河川環境を繁殖場及び産卵場、ねぐらとして利用し、富士川の河川環境への依存性の高い種
- ・餌場、休息場など一時的な利用の場として富士川の河川環境への依存性の高い種
- ・河川環境に依存性の高い動物の生息・生育環境として機能している水辺の植物など。富士川ではオギ、ヨシなどが挙げられる。
- ・レッドデータブック、レッドリスト（環境庁）選定種、天然記念物指定種等の学術上又は希少性の観点から重要な種（特定種）

◆ 生態系の視点から整理した富士川の河川環境を特徴づける種

視点	富士川の河川環境を特徴づける種	富士川河川環境とのかかわり
上位性	(鳥類) <u>チュウヒ</u> 、 <u>ハヤブサ</u> 、 <u>ミサゴ</u> 、 <u>ハイタカ</u> 、 <u>チョウゲンボウ</u>	・富士川の河川環境を主要な生息・生育場としている種の中で、猛禽類として富士川というステージにおける食物連鎖の頂点に位置していると考えられる種
典型性	(魚類) <u>アユ</u> 、 <u>シロウオ</u> 、 <u>コイ</u> 、 <u>フナ類</u> （ギンブナ、キンブナ）、 <u>ウグイ</u> 、 <u>カジカ</u> 、 <u>カワヨシノボリ</u> 、 <u>メダカ</u> (植物) <u>オギ</u> 、 <u>ヨシ</u> 、 <u>ツルヨシ</u> 、 <u>カワラヨモギ</u> 、 <u>ヤナギ類</u> （カワヤナギ等）、 <u>ツメレンゲ</u> 、 <u>ミゾコウジュ</u> 、 <u>タコノアシ</u> 、 <u>サツキ</u> 、 <u>ハマゴウ</u> 、 <u>マコモ</u> 、 <u>コナラ</u> 、 <u>エノキ</u> 、 <u>ケヤキ</u> (鳥類) <u>カワウ</u> 、 <u>カワセミ</u> 、 <u>コガモ</u> 、 <u>トモエガモ</u> 、 <u>ホウロクシギ</u> 、 <u>オオジシギ</u> 、 <u>チュウサギ</u> 、 <u>アジサシ</u> 、 <u>コアジサシ</u> 、 <u>シロチドリ</u> 、 <u>カンムリカイツブリ</u> (両爬哺) <u>カジカガエル</u> 、 <u>カヤネズミ</u> (昆虫) <u>オオムラサキ</u> 、 <u>クロツバメシジミ</u>	・富士川を主要な繁殖場・産卵場、ねぐらとして利用している種 ・餌場、休息場などの一時的な利用において、富士川の河川環境への依存度が高いと考えられる種 ・富士川における生息・生育範囲が大きいと考えられる種
移動性	(魚類) <u>アユ</u> 、 <u>カマキリ</u> 、 <u>ウグイ</u> 、 <u>ウナギ</u>	・広範囲に分布し、遡上・降下の過程で連続した水域が必要であると考えられる種
特殊性	(魚類) <u>ホトケドジョウ</u> (植物) <u>キンガヤツリ</u> 、 <u>シラン</u>	・典型性では把握し難い特殊な湧水や限られた場所に生息・生育する種

※下線の種名は特定種を示す。

上位性、典型性、移動性、特殊性は生態系の視点からの生物の区分であり、次表を参照のこと

◆富士川の河川環境を特徴づける種の生態系の視点からの区分

区 分	生態系の視点からの位置づけ
上位性	食物連鎖の頂点に位置する種
典型性	富士川の生態系の特徴をよく表す生育・生息環境及び生物群集
移動性	移動経路としての環境等を指標する広範囲にわたって移動する動物
特殊性	典型性では把握し難い特殊な湧水や限られた場所に生息・生育する生物

② 富士川に生息・生育する重要な種

既往の河川水辺の国勢調査により確認された富士川に生息・生育している重要な生物は、以下に示す特定種一覧表のとおりである。特定種は、植物7種、魚類5種、鳥類52種、両生類・爬虫類2種、底生動物3種、陸上昆虫21種である。

◆富士川で確認された植物の特定種一覧表

種名	指定区分 ※1	確認場所
ヤシャゼンマイ	自然	富士川中流
ツメレンゲ	準危惧	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
タコノアシ	危惧Ⅱ	富士川中流
サツキ	特定植物群落	富士川中流
ミゾコウジュ	準危惧	富士川中流、笛吹川
カワラノギク	危惧ⅠB	富士川
シラン	準危惧	富士川中流

※1 特定種の指定区分は下記のとおりである。

危惧ⅠB：レッドデータブック（平成12年 改訂版）絶滅危惧ⅠB類種

危惧Ⅱ：レッドデータブック（平成12年 改訂版）絶滅危惧Ⅱ類種

準危惧：レッドデータブック（平成12年 改訂版）準絶滅危惧種

自然：緑の国勢調査報告書における優れた自然の調査対象種

特定植物群落：第2回自然環境保全基礎調査で選定された特定植物群落「日本の重要な植物群落の分布」の指定群落

出典：平成7年度 河川水辺の国勢調査 富士川植物調査報告書

◆富士川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	指定区分 ※1	確認場所 ※2
スジシマドジョウ大型種 ※3	危惧Ⅱ	笛吹川
ホトケドジョウ	危惧ⅠB	笛吹川
メダカ	危惧Ⅱ	富士川上流（釜無川）、笛吹川
カマキリ	重要	富士川下流
シロウオ	準危惧	富士川下流、中流、上流（釜無川）

※1 特定種の指定区分は下記のとおりである。

重要：「日本の重要な淡水魚類」対象種

危惧ⅠB：レッドリスト絶滅危惧種ⅠB類種

危惧Ⅱ：レッドリスト絶滅危惧種Ⅱ類種

準危惧：レッドリスト準絶滅危惧種

※2 確認場所は、下記出典の現地調査によるものの他、以下の文献での記述も含む。

文献1：山梨県の野生生物（山梨県1980）

文献2：富士川魚道調査報告書（静岡県板井隆彦1986）

文献3：富士川下流部魚介類調査業務報告書（甲府工事事務所1990）

※3 スジシマドジョウ大型種は在来種であるがその分布域から考えると従来から生息していたと考えにくく、放流種苗への混入か飼育魚の逃亡又は投棄によるものと思われる。

（「平成10年度 富士川水系（富士川、笛吹川）魚介類調査報告書」）

出典：平成10年度 河川水辺の国勢調査 富士川水系（富士川、笛吹川）魚介類調査報告書

◆富士川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	指定区分 ※1	確認場所 ※2
アカアシギ	危惧Ⅱ	富士川下流
アカオネツタイチョウ	危惧ⅠB	富士川下流、中流、上流（釜無川）
アカツクシガモ	自然、不足	富士川下流
アカモズ	準危惧	富士川下流、中流、上流（釜無川）
アホウドリ	特天、保存、危惧Ⅱ	富士川下流
イヌワシ	国天、保存、自然、危惧ⅠB	富士川下流
ウミスズメ	危惧ⅠA	富士川下流
エリグロアジサシ	準危惧	富士川下流
オオアジサシ	危惧Ⅱ	富士川下流
オオジシギ	自然、準危惧	富士川下流、笛吹川
オオセッカ	保存、自然、稀少、危惧ⅠB	富士川下流
オオタカ	保存、稀少、危惧Ⅱ	全域
オオワシ	国天、保存、自然、稀少、危惧Ⅱ	富士川下流、富士川中流
オジロワシ	国天、保存、自然、稀少、危惧ⅠB	全域
カラシラサギ	不足	富士川下流
カラフトアオアシシギ	保存、危惧ⅠA	富士川下流
クロツラヘラサギ	危惧ⅠA	富士川下流
コウライアイサ	不足	富士川下流
コクガン	国天、危惧Ⅱ	富士川下流
コシヤクシギ	危惧ⅠA	富士川下流
コジュリン	自然、稀少、危惧Ⅱ	富士川下流、中流、上流（釜無川）
サンカノゴイ	稀少、危惧ⅠB	富士川上流（釜無川）
ズグロカモメ	危惧Ⅱ	富士川下流
セイタカシギ	稀少、危惧ⅠB	富士川下流
チュウサギ	準危惧	全域
チュウヒ	稀少、危惧Ⅱ	全域
ツクシガモ	危惧ⅠB	富士川下流
トモエガモ	自然、危惧Ⅱ	全域
ハイタカ	準危惧	笛吹川
ハチクマ	稀少、準危惧	富士川下流
ハヤブサ	保存、稀少、危惧Ⅱ	全域
ヒシクイ	国天、準危惧、危惧Ⅱ	富士川上流（釜無川）、笛吹川
ベニアジサシ	準危惧	富士川下流
ヘラシギ	危惧ⅠB	富士川下流
ハウロクシギ	危惧Ⅱ	富士川下流
マガン	国天、準危惧	富士川下流、上流（釜無川）、笛吹川
ミサゴ	稀少、準危惧	富士川下流、中流
コアジサシ	危惧Ⅱ	全域
カワウ	自然	全域
タンチョウ	特天、自然、稀少、危惧Ⅱ	富士川下流
ヨシガモ	自然、稀少	全域
ハリオアマツバメ	稀少	富士川下流
ヤマセミ	自然	全域
カワセミ	自然	全域
ツバメチドリ	危惧Ⅱ	富士川下流
カンムリカイツブリ	稀少	富士川下流、笛吹川
シロハラクイナ	稀少	富士川上流（釜無川）
チゴハヤブサ	稀少	富士川
コチョウゲンボウ	稀少	富士川上流（釜無川）
チョウゲンボウ	稀少	全域
トラフズク	稀少	富士川
タゲリ	稀少	富士川下流、上流（釜無川）、笛吹川

※1 特定種の指定区分は下記のとおりである。

特天：特別記念物

国天：国指定天然記念物

保存：国内稀少野生動植物

自然：「第1回緑の国勢調査」における「すぐれた自然の調査」の対象種

稀少：「第2回緑の国勢調査」における稀少種（鳥類）

危機ⅠA：レッドデータブック（平成14年改訂版）絶滅危機種ⅠA類種

危機ⅠB：レッドデータブック（平成14年改訂版）絶滅危機種ⅠB類種

危機Ⅱ：レッドデータブック（平成14年改訂版）絶滅危機種Ⅱ類種

準危機：レッドデータブック（平成14年改訂版）準絶滅危機種

不足：レッドデータブック（平成14年改訂版）情報不足種

※2 確認場所は、下記出典の現地調査によるものの他、以下の文献での記述も含む。

文献1：富士市の自然 富士市域自然調査報告書（富士市 1986）

文献2：嶸第37号（日本野鳥の会富士宮支部 1994）

文献3：山梨県環境別鳥類生息調査（山梨県林務部 1989）

文献4：富士宮の野鳥（富士宮市立郷土資料館 1992）

文献5：山梨日日新聞（山梨日日新聞社 1994.3.15）

文献6：山梨県の野生生物（山梨県 1980）

文献7：平成5年度富士川水系（富士川、笛吹川）小動物調査報告書（株）フレックス研究所 1994）

文献8：山梨の鳥（中村司、依田正直 1997）

文献9：しずおかの鳥（大隈久他）

文献10：富士川河口の野鳥（日本野鳥の会南富士支部）

文献11：富士川河口の鳥類リスト（渡辺修治）

文献12：平成6年度富士川水系（富士川・笛吹川）鳥類調査報告書（1995）（株）フレックス研究所

文献13～21：カワセミNo.8,17,22,29,50,54,59,68,71（やまなし野鳥の会、日本野鳥の会甲府支部）

文献22～34：さえずりNo.196,198,199,203,204,205,206,207,208,211,212,213,214

文献35：Strix 日本野鳥の会研究報告 1991 Vol.10（日本野鳥の会 1991）

文献36：Strix 日本野鳥の会研究報告 1992 Vol.11（日本野鳥の会 1992）

文献37：Strix 日本野鳥の会研究報告 1993 Vol.12（日本野鳥の会 1993）

出典：平成12年度 河川水辺の国勢調査 富士川水系（富士川、笛吹川）鳥類調査報告書

◆富士川で確認された両生類・爬虫類の特定種一覧表

種名	指定区分 ※1	確認場所
カジカガエル	自然、重要	富士川中流、上流（釜無川）
スッポン	不足	富士川上流（釜無川）

※1 特定種の指定区分は下記のとおりである。

自然：緑の国勢調査におけるすぐれた自然の調査対象種

重要：「日本の重要な両生類、爬虫類」指定種

不足：レッドデータブック（平成12年 改訂版）情報不足種

出典：平成11年度 河川水辺の国勢調査 富士川水系（富士川、笛吹川）小動物調査報告書
（両生類、爬虫類、哺乳類調査）

◆富士川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	指定区分 ※1	確認場所
シロタニガワカゲロウ	重要	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
オオヤマカワゲラ	重要	富士川中流
ヒゲナガカワトビケラ	重要	富士川中流、上流（釜無川）

※1 特定種の指定区分は下記のとおりである。

重要：「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫および特定昆虫

出典：平成10年度 河川水辺の国勢調査 富士川水系（富士川、笛吹川）底生動物調査報告書

◆富士川で確認された陸上昆虫の特定種一覧表

種名	指定区分 ※1	確認場所
オニヤンマ	重要	富士川中流
ギンヤンマ	重要	富士川上流（釜無川）
シオカラトンボ	重要	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
アキアカネ	重要	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
ミヤマアカネ	重要	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
アオマツムシ	重要	富士川中流
タイワンカンタン	重要	富士川下流
トビナナフシ	重要	富士川中流
ヒメマイマイカブリ	重要	富士川中流
ガムシ	重要	富士川中流
ヘイケボタル	自然	富士川中流
キボシカミキリ	重要	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
クロスズメバチ	重要	富士川上流（釜無川）
トラマルハナバチ	重要	富士川中流、上流（釜無川）
コウカアブ	重要	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
シオヤアブ	重要	富士川中流、上流（釜無川）、笛吹川
メスアカケバエ	重要	富士川上流（釜無川）
ギフチョウ	自然、重要、危惧Ⅱ	富士川
ウスバシロチョウ	重要	富士川
クロツバメシジミ	重要、準危惧	富士川上流（釜無川）
オオムラサキ	重要、準危惧、自然	富士川中流

※1 特定種の指定区分は下記のとおりである。

自然：「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種

重要：「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫および特定昆虫

危惧Ⅱ：レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類種

準危惧：レッドデータブック準絶滅危惧種

出典：平成9年度 河川水辺の国勢調査 富士川水系（富士川、笛吹川）昆虫調査報告書

③ 区間別の河川環境の特徴

富士川の河川環境の特徴と生物について、ある程度同一性のある区間別に整理すると次のとおりである。

1) 富士川下流区間（河口～雁^{かりがねてい}堤）

富士川下流区間は、広い高水敷と砂礫河原の多列砂州の河道である。高水敷は緑地公園やグラウンド等に利用されており、スポーツ、レクリエーションにも幅広く利用されている。

低水路部では河口部砂礫地において海浜性の砂丘植物群落（ハマゴウ等）が分布し、河口付近の干潟や滞筋の湿地環境にはマコモ、ヨシ等の抽水植物群落や、キンガヤツリが確認されている。



◆富士川の河口部（平成12年6月撮影）



◆海浜性の砂丘植物であるハマゴウ



◆湿地環境に見られるヨシ



◆湿地に生育するキンガヤツリ

鳥類は、河口部の砂礫地を繁殖場として利用するアジサシ類、干潟を餌場などとして利用するシギ・チドリ類、水際の樹林地や草地を集団越冬地、分布地として利用するカワウやガン・カモ類が生息している。なお、貴重な鳥類としてはチュウサギ、カンムリカイツブリ、ツバメチドリ、オオジシギ、ホウロクシギ、コアジサシ、タゲリその他、ミサゴ、オオタカ、チュウヒ、ハヤブサ等の猛禽類が確認されている。

魚類は、河口部という環境条件から、ウナギやアユ、カマキリ等の回遊性魚類やオイカワ、アブラハヤ等の純淡水魚、ボラやスズキ等の汽水、海水魚が生息している。なお貴重な魚類としては、回遊性魚類のシロウオが確認されている。



◆中州のガン・カモの集団越冬地



◆コアジサシ（危惧Ⅱ）の集団分布地



◆回遊性魚類のウナギ



◆回遊性魚類のシロウオ（準危惧）

ネイチャープロダクション提供

2) 中流部区間（雁堤～禹之瀬）

沿川に山地がせまった富士川中流区間では、河岸は山付き部分が多く、河道内は全体的に砂礫地が多くを占めている。またヤナギ類等の水辺に生育する樹林の他に、コナラ、ケヤキやハリエンジュ等の落葉広葉樹林も広く分布している。

中流部区間の植物は、オギ等のイネ科草地が広がるとともに、河道の広い砂礫地にはカワラヨモギ群落が広い範囲で分布している。

なお、貴重な植物としては、堤防の石張法面にツメレンゲが生育し、比較的湿潤な場所にはミゾコウジュ、タコノアシが、水際の崖地の斜面上にはシランや特定植物群落のサツキ等が生育している。



◆富士川中流部（南部付近）（平成12年6月撮影）

鳥類は、水際の樹林地を利用するカワウ、崖地等に営巣するカワセミやチョウゲンボウ等が生息する。ガン、カモ類は集団分布地が見られるが、下流区間と比較すると鳥の数は少ない。なお、貴重な鳥類としては、ハヤブサ、オオタカ、ミサゴ等の猛禽類の他、チュウサギ、コアジサシ、オシドリ、トモエガモが確認されている。

中流部では蛇行した流路に、瀬や淵が連続する区間が多く、瀬を産卵場とするアユ、ウグイや、カワヨシノボリ、カジカ等の礫質河床を産卵場とする種が多く確認されている。その他の生物としては、ほ乳類でイネ科草地に営巣するカヤネズミ、貴重な両生類として瀬の石の下など流水部を産卵場とするカジカガエルが確認されている。また貴重な昆虫類では、幼虫がエノキを食草とするオオムラサキが確認されている。



◆河岸に見られる落葉高木林

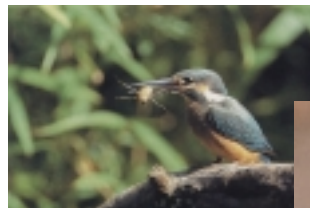


◆中流部に多く見られるオギ群落



◆崖地の斜面上に生育するサツキ
（特定植物群落）

出典：フィールド総合図鑑 川の生物
（財）リバーフロント整備センター編 山海堂



◆崖地等に営巣するカワセミ（自然）＜写真上＞
とチョウゲンボウ（稀少）＜写真下＞

出典：フィールド総合図鑑 川の生物
（財）リバーフロント整備センター編 山海堂



◆瀬を産卵場とするアユ

出典：フィールド総合図鑑 川の生物
(財) リバーフロント整備センター編 山海堂



◆瀬を産卵場とするウグイ



◆流水部で産卵し生長後樹林地などで生息するカジカガエル（自然，重要）

出典：フィールド総合図鑑 川の生物
(財) リバーフロント整備センター編 山海堂



◆エノキを食樹木とするオオムラサキ（重要，準危惧，自然）

出典：フィールド総合図鑑 川の生物
(財) リバーフロント整備センター編 山海堂

3) 釜無川区間

沿川に水田や畑、住宅地が広がり市街地を流れる釜無川は、急流で広い河道に砂礫地が広がる多列砂州の河道となっており、上流域の様相を呈している。この区間の植生は、出水によって維持形成される砂礫地のカワラヨモギや、ヤナギ類等の樹林地が広く分布している。また、77k 付近左岸には、ケヤキを主とした信玄堤が位置し、まとまった樹林地となっている。貴重な植物としては、堤防の石張法面にツメレンゲが生育している。なお、当該区間の武田橋～船山橋付近は、外来種であるハリエンジュの占める割合が最も高い区間である。

鳥類は、カワセミやカワウ等の水辺環境に依存した種が見られる他、オオタカ、チョウゲンボウ等の猛禽類の確認頻度が高くなっている。また、ガン、カモ類の集団越冬地も見られる。貴重な鳥類としては、オオタカ、ハヤブサの猛禽類の他、コアジサシ、タゲリなどが確認されている。

魚類ではアユや、カワヨシノボリ等の礫質河床を産卵場として利用する種が多く確認されている。

その他の生物としては、貴重な両生類として川の瀬の石の下などの流水部を産卵場とするカジカガエルが確認されている。また貴重な昆虫類ではツメレンゲを食草とするクロツバメシジミが確認されている。



◆釜無川の広い砂礫川原の河川敷（平成12年6月撮影）



◆礫質河床を産卵場とするカワヨシノボリ



◆ハリエンジュ林



◆砂礫地の代表的なカワラヨモギ



◆堤防の石張法面上に生育するツメレンゲ
（準危惧）



◆ツメレンゲを食草とするクロツバメシジミ
（重要，準危惧）

出典：フィールド総合図鑑 川の生物
（財）リバーフロント整備センター編 山海堂

4) 笛吹川下流部（天川合流点下流）区間

釜無川同様に沿川に水田、畑、市街地の広がる笛吹川下流区間は、河床勾配が比較的緩く、砂、シルト質の河床にはヨシ等の抽水植物が生育する他、貴重な植物のミゾコウジュも生育している。

鳥類は水際付近の樹林地においてアオサギやカワウの集団繁殖地、集団ねぐら等が見られるとともに、砂礫地ではコアジサシの繁殖地も確認されている。また貴重な鳥類としては、オオタカ、ハイタカ等の猛禽類、チュウサギ、タゲリなどが確認されている。

魚類はアユやカワヨシノボリ等の礫質河床を産卵場として利用する種が広く生息するが、止水域を好むコイやフナ類（ギンブナ、キンブナ等）等が確認されている。なお貴重な魚類としては、砂泥底を好むホトケドジョウや、メダカ等が確認されている。

5) 笛吹川上流部（天川合流点上流）区間

笛吹川区間（上流部）は、下流部と同様に沿川には水田、畑、市街地の広がっているものの、河床勾配が大きく、上流域の様相を呈している。しかし、河道内の砂礫地の分布は少なく、ヨシやツルヨシ等の抽水植物やヤナギ等の樹林地が広く生育する環境となっている。また、笛吹川25km付近の右岸堤内地には万力公園が位置し、まとまった樹林地を形成している。なお、貴重な植物としては堤防の石張法面にツメレンゲが確認されている。

鳥類は、ガン、カモ類の集団越冬地が見られる。また貴重な鳥類としては、コアジサシ等の生息も確認されている。

魚類は、釣りや伝統漁法の鵜飼が観光資源となっているアユや、礫質河床で産卵するウグイ、カワヨシノボリ、止水域を好むコイやフナ類（ギンブナ、キンブナ等）等が確認されている。この区間には、ウグイの産卵場（人工）があり、また貴重な魚類として砂泥底を好むホトケドジョウ、メダカ等が確認されている。



◆釜無川と比較して狭い河道にはヨシ等の湿地環境が広く分布する笛吹川
(平成12年6月撮影)



◆笛吹川は砂礫地が比較的少なく、ヨシ、ツルヨシやヤナギ等の樹林地が広く分布する。



◆水辺の湿地に生育するミゾコウジュ
(準危惧)



◆河岸の樹林を集団繁殖地、ねぐらとしている
アオサギ<写真左>とカワウ(自然)<写真右>



◆砂泥底を好むホトケドジョウ
(危惧ⅠB)



◆緩流域や止水域に生育するメダカ
(危惧Ⅱ)

◆ 区間別の主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地等

区間	主な環境の構成要素	富士川の河川環境を特徴づける種	集団分布地、繁殖地（産卵場）、ねぐら
下流区間 (0～6km付近)	○水域 ・汽水域、瀬、礫質河床、清流 ○陸域 ・海浜性砂丘、広い砂礫地、湿性草地、干潟	魚類：アユ、ウナギ、カマキリ＊、シロウオ＊ 植物：ハマゴウ、ヨシ、マコモ、キンガヤツリ 鳥類：コガモ、トモエガモ＊、カワウ＊、ホウロクシギ＊、チュウサギ＊、コアジサシ＊、チュウヒ＊、ハヤブサ＊、ミサゴ＊、オオジシギ＊	魚類：アユ、ウグイ、カジカの産卵場 鳥類：ガン、カモ類の集団分布地、越冬地、カワウの集団分布地、カモメ類の集団分布地、越冬地、シギ、チドリ類の集団分布地、越冬地、アジサシ類の集団繁殖地、アオサギの集団分布地
中流区間 (6～65km付近)	○水域 ・瀬と淵、礫質河床、清流 ○陸域 ・砂礫地、樹林地、崖地、高茎草地	魚類：アユ、ウグイ、カジカ、カワヨシノボリ、シロウオ＊ 植物：オギ、カワラヨモギ、ツメレンゲ＊、ミゾコウジュ＊、タコノアシ＊、シラン＊、サツキ＊、コナラ、ケヤキ、エノキ 鳥類：コガモ、トモエガモ＊、カワウ＊、カワセミ＊、チョウゲンボウ＊、チュウサギ＊、コアジサシ＊、トモエガモ＊、ハヤブサ＊、ミサゴ＊ 両爬虫：カヤネズミ、カジカガエル＊ 陸昆：オオムラサキ＊	魚類：アユ、カジカの産卵場 鳥類：ガン、カモ類の集団分布地、越冬地、カワウの集団越冬地
釜無川 (65～85km付近)	○水域 ・瀬、清流、礫質河床 ○陸域 ・広い砂礫地、樹林地	魚類：アユ、カワヨシノボリ 植物：カワラヨモギ、ツメレンゲ＊、ヤナギ類 鳥類：コガモ、トモエガモ＊、カワウ＊、カワセミ＊、チョウゲンボウ＊、コアジサシ＊、ハヤブサ＊ 両爬虫：カジカガエル＊ 陸昆：クロツバメシジミ＊	鳥類：ガン、カモ類の集団分布地、越冬地、コアジサシの繁殖地
笛吹川（下流部） (0～17km付近)	○水域 ・緩流区間、瀬と淵、礫質河床、砂泥底河床 ○陸域 ・砂礫地、湿性草地	魚類：アユ、カワヨシノボリ、コイ、フナ類（キンブナ、ギンブナ）、ホトケドジョウ＊、メダカ＊ 植物：ヨシ、ミゾコウジュ＊ 鳥類：コガモ、トモエガモ＊、カワウ＊、コアジサシ＊、チュウサギ＊、ハイタカ＊	鳥類：ガン、カモ類の集団分布地、越冬地、カワウの集団分布地、ねぐら、アオサギの集団繁殖地、コサギの集団繁殖地
笛吹川（上流部） (17～30km付近)	○水域 ・急流区間、瀬と淵、礫質河床、砂泥底河床 ○陸域 ・砂礫地、樹林地、湿地草地	魚類：アユ、カワヨシノボリ、ウグイ、コイ、フナ類（キンブナ、ギンブナ）、ホトケドジョウ＊、メダカ＊ 植物：ヨシ、ツルヨシ、ツメレンゲ＊、ヤナギ類 鳥類：コガモ、トモエガモ＊、コアジサシ＊	魚類：ウグイの産卵場（人工） 鳥類：ガン、カモ類の集団分布地、越冬地

*印は特定種を示す。

2-2 特徴的な河川景観や文化財等

富士川流域には、自然豊かな環境を背景に自然公園や温泉、また、恵林寺庭園等の名勝や、ブドウ、モモ等の観光農園が広がり、一年中観光客が訪れている。特に山岳地帯は名峰や滝、溪谷等の自然とふれあえるため登山やハイキング、キャンプ等に多く利用されている。一方、富士山の裾野を中心に湧水群や滝等の景勝地も多く、恵まれた観光地として賑わっている。また、甲府盆地の中心に信玄ゆかりの館や史跡めぐり等の他、火祭り等のイベントにも多くの観光客が訪れ、川文化にふれあう機会の多い地域でもある。

また、流域内には数多くの文化財が存在し、このうち史跡、名勝、天然記念物は189件（内、国指定36、県指定153）で、武田信玄にゆかりがあるものが多い（いずれも平成13年現在）。

◆国指定史跡、名勝、天然記念物指定一覧

県名	市町村名	名 称	指定区分
山梨県	一宮町	甲斐国分寺跡	史跡
		甲斐国分寺尼寺跡	史跡
	中道町	銚子塚古墳 附丸山塚古墳	史跡
	甲府市	武田氏館跡	史跡
		御岳昇仙峽 ^{*1}	特別名勝
		燕岩岩脈	天然記念物
		要害山	史跡
	韮崎市	新府城跡	史跡
	勝沼町	勝沼氏館跡	史跡
	大泉村	金生遺跡	史跡
		美森の大ヤマツツジ	天然記念物
	塩山市	谷戸城跡	史跡
		恵林寺庭園	名勝
		向嶽寺庭園	名勝
	若草町	三恵の大ケヤキ	天然記念物
	甲西町	古長禅寺のビャクシン	天然記念物
		甲西の大カシワ	天然記念物
	武川村	山高神代ザクラ	天然記念物
		万休院の舞鶴マツ	天然記念物
	鳴沢村	富士山 ^{*2}	特別名勝
		富士山原始林 ^{*3}	天然記念物
		神座風穴 附蒲鉾穴及び眼鏡穴	天然記念物
静岡県	身延町	本国寺のオハツキイチョウ	天然記念物
		上沢寺のオハツキイチョウ	天然記念物
		八木沢のオハツキイチョウ	天然記念物
		身延町のブッポウソウ繁殖地	天然記念物
	敷島町	御岳昇仙峽 ^{*1}	特別名勝
	須玉町	根古屋神社のオオケヤキ	天然記念物
	上九一色村	富士山原始林 ^{*3}	天然記念物
	富士宮市	富士山 ^{*2}	特別名勝
		白糸の滝	名勝
		万野風穴	天然記念物
		狩宿の下馬ザクラ	特別天然記念物
長野県	富士市	湧玉池	特別天然記念物
		千居遺跡	史跡
		富士山 ^{*2}	特別名勝
		浅間古墳	史跡
	裾野市	富士山 ^{*2}	特別名勝
	沼津市	興国寺城跡	史跡
		休場遺跡	史跡
長野県	富士見町	井戸尻遺跡	史跡

注) *1、*2、*3は複数市町村にまたがる資源

(出典：山梨県文化財分布図他)



富士川水系の特徴的な景観は次のようである。

富士川水系の上流部には自然の景勝地が多くあり、これらは自然公園として指定され、秩父多摩甲斐国立公園周辺には西沢・東沢溪谷、御岳昇仙峡、竜門峡、南アルプス国立公園周辺には尾白川溪谷、白鳳溪谷、早川溪谷、富士箱根伊豆国立公園周辺には白糸の滝、八ヶ岳中信国定公園周辺には八ヶ岳南麓湧水群等がある。富士川の景勝地を見ると、釜無川では信玄堤、笛吹川では万力林、近津堤等、河口部には雁堤があり、これらは富士川25選(昭和62年、富士川サミットにおいて選出)に選定されている。

◆富士川25選

№	名 称	内 容
1	釜無川、御勅使川の治水	自然を利用して自然を制す信玄堤に代表される治水工法は、「甲州流防河法」といわれ、それらは釜無川、御勅使川にかけて数多く残っている。
2	笛吹川の治水の要・万力林	水防林の万力林と雁行堤は信玄堤と共に甲州流防河法のシンボル。
3	古郡三代と雁堤の治水	富士川河口扇状地の扇頂部の治水の要が雁堤である。古郡三代の労苦が偲ばれる。
4	湖水伝説と神々の治水	甲斐の国は、昔、湖であって、神々が山を裂き、川を開いて盆地をつくったと伝えられている。
5	甲州三河岸とアクバとの戦い	角倉了以が開いた富士川水運は甲州と駿州との大動脈、300年間続く。
6	近津の難所と三川合流	笛吹川・日川・重川の合流点は甲州三大水難所の一つ。竜王の信玄堤、差出の万力林と共に治水の要。
7	釜・笛・芦三川葛藤の場	4キロに及ぶ導流堤は近代治水のシンボル。
8	盆地・落水の水難所	笛吹川、荒川、濁川の合流点付近は内水被害の常襲地。
9	ムルドルの意見書と砂防黎明の地	「県営砂防発祥の地」市之瀬川とオランダ人技師ムルドルの意見書「砂防なくして河川改修なし」。
10	釜無川上流土砂流出の猛威	大武川をはじめとする釜無川上流河川からの土砂流出はすさまじく、昭和57年の出水時はミニグランドキャニオンをつくった。
11	山水、郷水、落合の場	内水河川が天井川によって妨げられている甲西町一帯、昭和42年に河川の立体交差五明合流調整工が完成した。
12	徳島堰と野呂川上水道	月夜にも焼ける干ばつ地帯・原七郷を潤す、徳島堰と野呂川水道。
13	日本一深い湾と高潮堤	台風進路であり、かつ我国最深の駿河湾からくる高潮から国土を守る高さ17mの高潮堤。
14	粘土お高やんの日除け松	美声の「お高やん」が歌う釜無川築堤労働歌「粘土節」が川面に響く田富町の堤。
15	深山・明水・西沢・東沢溪谷	甲武信ヶ岳を源流とする笛吹川の上流部には深山・明水の西沢溪谷や東沢溪谷がある。
16	懸騰・電撃、釜無・尾白川溪谷	釜無川上流、甲斐駒ヶ岳を水源に持つ尾白川溪谷は勇壮な滝と洑のおりなす景勝地。
17	奇岩、奇勝御岳昇仙峡	荒川の源流の御岳昇仙峡は神がつくった花崗岩の奇岩奇勝の景勝地。
18	フォッサマグナ沿いの早川幽谷	早川の深い溪谷は日本を東西に分ける大断層。糸魚川・静岡構造線を侵食して出来た谷。フォッサマグナの露頭を見ることができる。
19	八ヶ岳南麓湧水群	広大な八ヶ岳の山麓には多くの湧水ヶ所が知られている。長坂町の三分一湧水はその代表的なもの。
20	鵜飼勘作・笛吹権三郎伝説の地	笛吹川や鵜飼川の名の由来となった笛吹権三郎と鵜飼勘作はうつろう川の歴史を今に伝えている。
21	笛吹川の風情・差出の磯	笛吹川・山梨市の河岸は海辺の磯の風情がある。多くの歌人・文人の詩情が今も伝わる。
22	御製歌碑と松並木	富士川橋梁から富士の眺めを歌われた昭和天皇の御製の歌碑と富士川の堤防の松並木は富士川下流風情を代表する。
23	御神幸さんと信玄ケヤキ並木	信玄が残したと伝えられる竜王・三社神社の祭り「御神幸さん」はユーモラスな掛け声の中に治水・堤への畏敬感謝の意を伝えている。
24	富士川谷の火祭りと川供養	川供養、川施餓鬼と呼ばれるお盆の行事は富士川の谷の各地の素朴な風物詩。「あげじゃ松」「ナギンデー」等と呼ばれる投げ松明はそのクライマックス。
25	川幅日本一と富士川緑地公園	富士川河口幅は約2kmで日本一をほこる。29haの広大な高水敷は沿川住民に貴重なレクリエーション空間を提供している。

(出典：竹林征三「甲斐路と富士川」)

富士川 25選



① 荏瀬川、御勅使川の治水

自然を利用して自然を創す治水工法は、御勅使川に代表され、御勅使川にかけて数多く残っている。



② 笛吹川治水の要(かなめ)万力林

甲府を守る治水要所の一つ、現在は市民のいこいの場となり公園内に雁行堤が残っている。



③ 古都三代と雁堤の治水

富士市にある雁堤は古く三代、50年間かけて築いた大堤防。雁の群れが鳥の姿から呼ばれている。



④ 湖水伝説と神々の治水

甲府盆地の水は神沢湖の奥の湖に集まる。昔、湖だった甲府盆地を開いた伝説が伝わっている。



⑤ 甲州三河岸とアクバとの戦い

角倉了以の富士川開削により、昭和まで300年間舟運で栄え、甲州と駿州(静岡)の大動脈だった。



⑥ 近津の難所と三川合流

笛吹川・白川・種川の合流地域は甲州三大難所の一つ。治水工法と三川調整で近津堤が完成した。



⑦ 荏瀬川、笛吹川、芦川三川調整の場

4牛口におよぶ三川の調整場。下流へ導いて合流させ現代治水の原点といわれている。



⑧ 盆地、落水の水難所

元禄8年、白州の山口素堂は笛吹川の逆流氾濫を防ぐため濁川を改修、合流点を下流へ導いた。



⑨ ムルドルの悪見害と砂防黎明の地

オランダ植民ムルドルの悪見害「支川の砂防なくして河川の改修なし…」富士川近代砂防の祖である。



⑩ 荏瀬川上流土砂流出の猛威

水量が少なく見える大淵川は、大雨で一変する。昭和34年災害を契機に急務工事が続く。



⑪ 山水、濁水、落合の場

天井川、都い川が僅なり合う甲府盆地南部、川を立体交差にした五明合流調整工は昭和42年に完成。



⑫ 御勅使と野呂川上水道

日本三大堰、御勅使も御勅使川堰状地を築かず、御勅使川状流水で御勅使に生まれ変わった。



⑬ 日本一深い溝と真瀬堤

富士川河口、駿州堤は昭和41年高堤で築かれたが、現在は高さ17メートルまでに補修されている。



⑭ 粘土お高やんの臼除け松

想防づくりの苦しい作業をしのぐ川面に働く作業歌。「粘土節」今も田舎町の保存会等で歌っている。

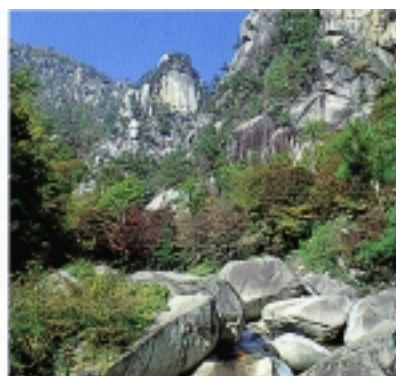
(出典:「富士川ウォッチング」甲府工事事務所パンフレット)



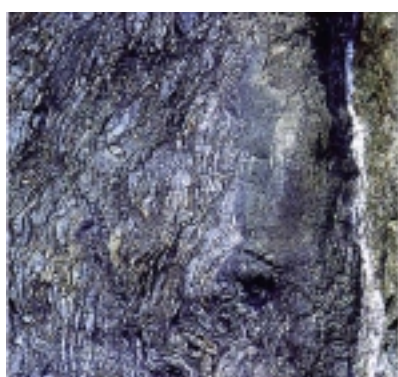
15 深山、明水 西沢・東沢溪谷
男性的闊沢、神秘性を守る幽沢、水と人とのかわわりが体感できる笛吹川源流は自然が残っている。



16 冠鏡、電撃 釜無・尾白溪谷
甲斐駒ヶ岳を源流に花崗岩の美しい滝が続く。川の水は「日本名水百選」にも選ばれている。



17 奇岩、奇勝 御岳昇仙峡
日本一美しい渓谷といわれ、観光山梨の白玉。荒川の水は飲料水として、「全国のおいしい水」の一つ。



18 フォッサマグナ沿いの早川幽谷
日本を東と西に分ける大断層、糸魚川―静岡構造線に位置し、深い谷が美しい。(写真は大城川の霧瀬)



19 ハヶ岳南麓湧水群
長坂町小笠原の「三分一湧水」は湧水群の代表的なもので、農業用水として三等分に配水している。



20 鶴飼勘作・笛吹権三郎伝説の地
笛の音に由来する笛吹川の伝説と鶴飼山遍抄寺のもととなった話。現在鶴飼川は消滅している。



21 笛吹川の風情、差出の磯
山梨市南の右岸景勝地で、岩が海辺の磯のようだ。奈良・平安の昔から詩歌に詠まれている。



22 御製歌碑と松並木
昭和58年、昭和天皇が新幹線富士川橋からの富士を歌われた碑。歌碑は日時計にもなっている。



23 御神幸さんと信玄ケヤキ並木
甲斐一宮浅間神社から竜王の三社神社までみこしが運ばれる。釜無川の治水の祭りとして有名。



24 富士川谷の火祭りと川供養
下流一帯は水雲祭の火祭りが盛んで、江戸期から続く。夏の爽やかな風物詩。8月15日を挟んで実施。



25 川幅日本一と富士川緑地公園
富士川河口は日本一広く、約1950メートル、面積29ヘクタール。広大な敷地は公園、運動場となって利用されている。

(出典:「富士川ウォッチング」甲府工事事務所パンフレット)

2-3 川にまつわる歴史・文化

富士川は、古くは万葉集の中にも「…不尽河と 人の渡るも その山の 水の^{たぎ}激ちぞ・…」と詠まれるほど、人とのかかわりが古いことで知られている。

万葉の時代から、富士川流域における農耕文化はその自然環境の中で大河川を次第に治め、扇状地の氾濫原や沖積地に向って、農耕文化を飛躍させてきた。

平家物語には、富士川合戦の様子が記されているとともに、江戸時代には、葛飾北斎が描いた浮世絵「富嶽三十六景」に登場している。

葛飾北斎の「富嶽三十六景」中の「甲州石班沢^{かじかざわ}」には投網をしている漁夫の姿とまるで海を思わせるような荒波の富士川が描かれている。

富士川は江戸時代以降、明治末期まで約200年間、甲斐と駿河を結ぶ太い動脈であり、「富士川船頭歌」においても次のように歌われていた。

上り船見りゃ 愛想がつきる

下り船見りゃ またほれる

これは、下りはわずか6～8時間であったが、上りは船首につけた網を肩にかけて河原をさかのぼらざるをえなかった（曳き舟）ためである。

また、富士川を上り下りする舟は「笹舟」あるいは「高瀬舟」と呼ばれ、岩が露頭する難所の多い急流用に工夫された構造をもっていた。

その他に、富士川流域にまつわる歴史的・文化的行事としては主として次のものがあげられる。南部町の火祭りは、盆の送り火や川施餓鬼として行われた儀式であると同時に稲作を病虫害から守るための行事を兼ねている。夜空を焦がす炎は、富士川流域に夏の風物詩として人々に感動を与えている。

石和町に伝わる「笛吹権三郎」の話は、豪雨のため家が流され、母親が行方不明になり、笛の上手な孝行息子が毎日毎夜母親の好んだ曲を吹きながら川に落ちておぼれてしまったという話であり、富士川の洪水との戦いの歴史がうかがえる。

芝川町の「川^{かわ}勸^{かん}請^{じょう}」は、藁に縄を巻き、松明を川に流すお盆の行事で、水難事故が多発したことを裏付けている。



◆曳き舟の図

(出典：甲斐の道づくり・富士川の治水)



◆富嶽三十六景のうち甲州石班沢

(出典：甲斐の道づくり・富士川の治水)

2-4 市民活動

富士川流域の河川に関連した活動としては、富士川ファンクラブが、「Eボート大会」「富士川の24時間水質調査」等を行っている。

また、富士川流域交流会では、富士川流域に住む小学生を対象として、人と川・自然の恵みを楽しく学ぶ1泊2日の体験学習を行っている。



◆富士川の24時間水質調査

2-5 自然公園等の指定状況

(1) 自然公園及び鳥獣保護区

流域には国立公園が3件、国定公園が1件、県立自然公園が2件、計6件の自然公園が指定されている（山梨は平成13年、長野・静岡は平成12年現在）。また鳥獣保護区は、長野県で5件、山梨県で39件（内、特別保護区7件）、静岡県で12件（内、特別保護区1件）の計53件が設定されており、富士川流域は自然豊かな環境を有しているといえる（いずれも平成13年現在）。

(2) 保安林

① 釜無川

釜無川及び御勅使川上流域は主に県有林で、山岳地帯は南アルプス国立公園の特別地域及びその周囲は県立南アルプス巨摩自然公園になっている。また、御勅使川流域の大部分は水源涵養保安林に指定され、山林の自然環境が保全されている。

② 笛吹川

笛吹川及び支川の荒川上流域は秩父多摩甲斐国立公園に指定され、主に民有林及び県有林からなっている。山岳部森林地帯は主に水源涵養保安林に指定され、森林の保全がなされている。

③ 富士川

富士川本川の森林地帯の多くは水源涵養保安林に指定されている。左支川佐野川上流域は国有林となっている他、相対的に分水界周辺の山林は県有林、山麓部が民有林となっている。